

エジプト駐在武官

官能的な踊りベリーダンス
日誌(12)

榊枝 宗男 陸自75

中東のどの都市にもベリーダンスがある。太鼓や管楽器の奏でるエキゾチックな音楽に合わせ、大胆なコスチュームをまとった豊満な女性が腰をくねらせて踊り廻る。ベリーダンスは腹踊りの意味で、発祥の地はエジプトとされ、17世紀のオスマン・トルコの支配下の中東各地に広まった。

女性ダンサーの官能的な踊りは、イスラムの戒律とは対照的だ。ベリーダンスは結婚式の披露宴で、プロのダン



当時小2の二男とダンサー 筆者撮影

サーが新郎新婦の目の前でアラブらしい振りや肌を露出した衣装をまとい一杯踊る。子孫繁栄のため、新郎新婦の性欲をかき立たせるための余興である。しかしながら、いやらしさを感じないのは何故だろうか。深夜レストランでも楽団を率いたダンサーが、店から店へ踊り巡っている。現地のダンサーのみならず、ベリーダンスの妖艶ようえんさに取りつかれたアメリカ人や日本人ダンサーも有名だ。

イスラム社会では、美人の要件にまず「太っている」ことが第一条件に上げられる。どのダンサーもみな体格がよく、あまり華奢きゃしゃな人はいない。どちらかという和小太り、むしろ中太りのグラマーだ。胸、腹、腰の肉が脂肪を含めてそれぞれ別の生き物のように躍動するさまは、一流のダンサーでは芸術的ですからある。小さいころからほどの修練をしてきたのであろう。

当時小2の2男が、網目の衣裳がお腹の肉に食い込んだダンサーを見て、まさに「ボンレス・ハムのお姉さん」と呼んでいた。

私も、退職後のんびりした生活のお蔭で、身体がベリーダンサーに近づきつつある。同窓会での余興は、官能的な日本版へそ踊りとするのも良いかと思う今日この頃である。